

今月の写真：子供歌舞伎

南会津の夏といえば、やはり会津田島祇園祭！中でも、この子供歌舞伎は大人顔負けの力強さと存在感があります。今年も子供たちの雄姿を見に行きませんか？

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・共に植え、育つは大きな樹と心♪
 - ・下郷花街道開通!!
 - ・先人が遺した城下堰の歴史をもっと知ろう!!
 - ・どろんこ田植えだ田んぼの学校!!
 - ・水稲有機栽培ほ場でコイの放流!! 雑草を抑えてね♪
- 特集！
 - ・第2回世界ブナ・サミットinただみ
- コラム
 - ・单身生活を楽しむ!!
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・飲食店の皆さまへ
「食彩ふくしま地産地消推進店」を募集しています!!
 - ・トマト黄化葉巻病に注意!!
家庭菜園栽培の方も対策に協力ください!!

平成20年7月10日発行 福島県南会津農林事務所



今月のトピックス



トチやブナ等を植える児童

共に植え、育つは大きな樹と心♪

6月10日(火)、檜枝岐村字上河原地内の村有地において、檜枝岐村、檜枝岐村緑化推進委員会、南会津地方緑化推進委員会の共催による「第57回南会津地方植樹祭」が開催されました。

この植樹祭は、県民一人ひとりが森林づくりに参画することを目的として、県民の皆様から寄せられた「緑の募金」からの交付金等により運営されているものです。

当日は、抜けるような青空の下、緑の少年団や一般参加者、来賓を合わせ、約150名が参加しました。

式典では、地域の緑化活動に功績のあった檜枝岐小学校、星初善氏(南会津町貝原)、曾根秀雄氏(同大桃)が緑化功労者として表彰されました。緑化功労者を代表して檜枝岐小学校の児童が謝辞を述べ、これ

からも地域の緑を守っていくことを誓いました。

また、平成13年度から南会津産木製玩具類の売上金の一部を南会津地方緑化推進委員会へ寄付している株式会社高島屋に対して、感謝状の贈呈が行われました。

来賓を代表して知事(南会津農林事務所長代理出席)が祝辞を述べた後、参加者全員による植樹が行われ、トチやブナなど6種類、計210本の広葉樹の苗木を植えました。照りつける陽射しと高原のさわやかな風の中、参加者は互いに協力し合いながら作業を進め、無事に全ての苗木を植えることができました。

今回参加者一人ひとりの手によって植えられた苗木は、やがては大きく育って、地域の美しい緑を創出してくれることでしょう。

なお、来年度の植樹祭は南会津町南郷地域において開催される予定です。(森林林業部)

下郷花街道開通!!

下郷町の国道289号沿線にステキな花の街道がお目見えしました。場所は役場の上の交差点を中心とした道の両側で、その距離はなんと1km以上もあります。これだけの規模の花壇は他に類を見ません。

本格的に活動が始まったのが昨年からです、JA



全長1kmもの美しい花壇

会津みなみ下郷支店花卉部会や下郷町認定農業者会等が中心となって関係機関とともに準備を進めてきました。そして、今年4月中旬には宿根草のリアトリスを定植し、さらに6月中旬には沿線の塩生地区の住民や旭田小学校の児童など多くの人たちの協力を得てサルビアとマリーゴールドを定植することができ、見事な花街道が誕生しました。

参加した人たちは、「今までは雑草だらけだったけど花が植わると気持ちがいいねえ」、「花が咲くまでこれからちょくちょく様子を見に来るわ」、「きれいな花を見ながらゆとりを持って運転して欲しいよなあ」などと楽しそうに話しながら作業をしていました。

今回植えた花のうち、サルビアとマリーゴールドは開花期間が長いので、秋まで楽しめますが、リアトリスは開花期間が限られます。そのため、リアトリスの開花する7月中旬～下旬ごろが坂の上から下まで全体の花が一斉に咲きそろい、一番の見ごろを迎えます。今年の夏はぜひ下郷の花街道を見に出かけてみませんか？

(農業振興普及部)

先人が遺した城下堰の歴史をもっと知ろう!!

農業水利施設管理強化月間の関連イベント及び農地・水・環境保全向上対策の広報活動として、只見町梁取農村公園において「水の郷」学習会が開かれました。



先人の偉功を伝える大竹さん

当日は約120名を超える地域住民の方が集まり、城下堰(梁取集落耕地約40haをかんがいする頭首工)建設にまつわる苦労話や只見町のほ場整備に関する経過等を大竹穂積さんより説明していただき、改めて先人の業績を偲びました。

また、「こんなにすごい！田んぼの役割」と題して、南会津農林事務所職員よりパネル形式で説明が行われ、田んぼや農村を守るためにはどうすれば良いのかみんなで考え、自分でできることから実行する必要性を唱えました。



生き物調査をする子ども達

学習会のあと、ビオトープ池において生き物調査や水質調査を実施し、公園内のひょうたん池ではイワナのつかみどりが行われ、子どもから

お年寄りまでが歓声をあげて楽しい一時を過ごしました。捕まえたイワナはさっそく塩焼きにされ、参加したみなさんに振る舞われました。

最後に、本学習会を通して、農業水利施設に愛着を持ち、将来にわたって集落による維持管理が図られ、さらに、様々な共同活動につながることを期待しています。

(農村整備部)

どろんこ田植えだ田んぼの学校!!

南会津町立田島第二小学校の学習田において、5年生を中心に、全校児童98名が参加して田植えを行いました。教職員から苗の植え方などの説明を聞いたあと、奥会津地方歴史民俗資料館の協力により3年生と6年生が昔の「野良着」を身に着けて、苗をまっすぐ植え付けできるように木製三角枠「ころがし」を使いながら手植えを行いました。

今では機械による田植え作業が当たり前ですが、手作業の大変さを理解できた貴重な体験となったようです。今後は稲の生長を観察しながら、稔りの秋には収穫祭を楽しむ予定です。

(農業振興普及部、農村整備部)



野良着で田植えをする児童

水稲有機栽培ほ場でコイの放流!!

雑草を抑えてね!

去る6月19日に只見町叶津地区中野大徳さんの水稲有機栽培ほ場でコイの放流を行いました。この技術はコイが動くことにより土が攪拌され濁り水になり遮光されて雑草の生育が抑えられること、また、雑草そのものが浮き上がることをねらったものです。13aのほ場を水深20cm程度にし、体長15cm程度のコイを約300匹放流しました。放流されたコイはほ場内を元気に泳いでいました。特に、水深が深い部分は良く動くように見られました。放流後は野鳥に食べられないように、ほ場全面にネットを張り、対策を講じました。コイは約1ヶ月間、ほ場で育成し、7月下旬頃に引き上げられる予定です。高い抑草効果が期待されます。

(農業振興普及部)



コイを放流する中野さん

第2回世界ブナ・サミットinただみ

6月21、22日の2日間、只見町において第2回世界ブナ・サミットinただみが開催されました。

平成17年以来2回目となる今回のブナ・サミットは、只見町が主催、NPO法人地球環境大学が企画運営に当たり、環境省・林野庁・南会津郡町村・県等の後援で行われました。

只見町のブナ林は、国有林を含め約4万3千haあり、その面積は白神山地のブナの約1.7倍と国内有数の規模を誇っています。平成19年4月には、森林生態系保護地域の指定を受けるとともに、只見町はこの優れた地域の資源を活かすために只見町ブナセンターを発足させるなど、ブナを核とした人づくりと地域づくりを図りながら町の活性化に取り組んでいます。

1日目の講演会は、全国から230名が参加し、京都大学名誉教授の河野昭一氏による「ブナ林の価値と保護・保全の実態」、米国スミソニアン環境研究センター副所長デニス・ウィガ



講演をする
ウィガム氏(左)と河野氏(右)



癒しの森での観察会

ム氏による「極相林の自然保護の現状」や横浜国立大学名誉教授の青木淳一氏、森林総合研究所鈴木和次郎氏より森林生態系に関する研究報告がありました。パネル討論では、「北半球冷温帯圏の希少な森・ブナ林の多様性とその価値」をテーマに講師の方々より活発な意見が出されました。

2日目は、自然に対する負荷に配慮し、限定120名の参加者を只見町自然ガイドインストラクターが案内する方法で、ブナの森の観察会が布沢「癒しの森」で行われました。観察会は天候にも恵まれ、ブナの大木の前で写真を撮る参加者が多く見られました。

農林事務所としても、ブナ林の保全を支援すると共に、これまで地域の生活や文化に密着して利用されてきた貴重な資源としてのブナの保護と利用も図っていきます。
(森林林業部)



討論会の様子

今月のコラム

单身生活を楽しむ!!

南 会津農林事務所の勤務初日、4月1日はいきなり横殴りの雪で手荒い歓迎のスタートとなった。今回は、今までの单身生活を顧みて自然豊かな奥会津地方を楽しみながら、ちょっと地球環境に貢献するかと考え、まず1年間、自動車を持たない生活にチャレンジ。そのため、高速バスで会津若松駅、次に会津鉄道で田島への3時間の旅となった。

会津鉄道の乗降客の多くは、関東方面から来る観光客で、山あいの田園と大川溪谷をのんびり走る電車にゆられくつろいでいる。私は現在起こっている異常気象は……考えながら、二酸化炭素排出抑制にどれだけ貢献できるか。まあ～身近でできることから始めよう！エコと。

年齢55歳。不健全な生活に耐えてきた体もキシミ・歪みが現れ、健康のキーワード、メタボが気になる。そこで、体力づくりは、足・自転車・鉄道で観光地巡

りと、まず町主催の自然に触れるトレッキングに参加する。食に関しては、ゆっくり良く咬んで匂を味わう食事に心がける。昔のような一汁一菜の生活はできないけれど、近くに耕す畑を見つけて野菜づくりをして地元料理に挑戦するか。「単身者、そんなにおかずは作れない。」の声が聞こえそうな気がするけれど、なにより健康維持には努力が1番ですから。

南会津勤務は初めてですので、どうぞよろしくお願いいたします。

企画部長
齋藤潤一



歴史衣装に身を包む齋藤部長(写真中央)

飲食店の皆さまへ「食彩ふくしま地産地消推進店」を募集しています!!

福島県では、地産地消の趣旨に賛同して、県産農林水産物を積極的に利用する飲食店「食彩ふくしま地産地消推進店」を募集しています。

※「食彩ふくしま地産地消推進店」とは、
“地産地消の趣旨に賛同して、県産農林水産物を積極的に利用する飲食店を県が募集・認定し、消費者に本県で生産される豊富な農林水産物を知っていただくとともに実際に食する機会を増やすことにより、県産農林水産物の消費拡大につなげること”

を目的としています。

詳しい内容については、
県農産物流通課ホームページ
(<http://www.pref.fukushima.jp/an-ryu/>)

または、
南会津農林事務所 農業振興課
TEL 0241-62-5253 へ
お問い合わせください。
(農業振興普及部)



トマト黄化葉巻病に注意!! 家庭菜園栽培の方も対策に協力ください!!

現在、「トマト黄化葉巻病」というトマトの病気が全国的に問題となっています。

トマトやミニトマトがこの病気に感染すると薬剤では対処できず著しい減収になります。地元のトマト産地に発生が拡大すると甚大な被害が予想されます。

このため、家庭菜園や市民農園などでトマトを栽培される方は、病気のまん延の防止のため、次のことにご協力ください。

1) 病気の特徴

発病したトマトは、成長点付近から黄化し、葉が巻き込みます。病気が進行すると葉が小型化し、一見ジャガイモの葉のようになり、開花しても実が付かなくなります。

2) トマト黄化葉巻病の防除対策

(1) タバココナジラミという白い小さな虫(体長約0.8ミリメートル)が病気を媒介するので、虫を発見したら速やかに防除をお願いします。

家庭園芸トマトでは、苗の定植時に「モスピラン粒剤」等、生育期には「モスピランスプレー」や「園芸用でんぷんスプレー」などの農薬が有効です。

(2) 発病した株は病気の発生源とならないよう、出来るだけ早く抜き取って、ゴミ袋などに詰め

込み枯死させたのち、植物体を土中に埋め込んでください。

(3) トマト栽培ほ場(特に施設トマト)の近隣では、伝染源にならないように栽培管理には十分に注意願います。

(4) 栽培終了後は、果実や茎葉をきちんと処理し、野良苗が発生しないようにしてください。

問合せ先

- 南会津農林事務所 農業振興普及部
TEL 0241-62-5264
- 南郷普及所
TEL 0241-72-2243
- JA会津みなみ 営農部 営農課
TEL 0241-63-1174

詳しい情報を知りたいときは…

(福島県病害虫防除所ホームページ“病害虫ライブラリ”コナジラミ類・植物ウイルス病参照)

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>
(農業振興普及部)



黄化葉巻病になったトマト



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 0241-62-5252(4月から変わりました) FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



ふくしま食と農の絆づくり運動

みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌はSOY(大豆油)インキを使用しています。